

第 20 回 SC サテライト放送株式会社 番組審議会 議事録

1. 開催日時： 2025 年 12 月 3 日(水) 13 時 30 分 ～ 14 時 30 分

2. 開催場所： ショップチャンネル本社ビル

3. 審議委員出席者：

委員総数 7 名

出席委員の氏名 音 好宏氏 (委員長)、入江 たのし氏、五井 千鶴子氏、棚橋 節子氏、
桧山 珠美氏、細川 幸一氏、万場 徹氏

4. 事業者側出席者：

SC サテライト放送株式会社

代表取締役社長 佐々木 良太

取締役 星野 友昭

メディア営業部長 濱田 哲史

技術部長 高野 浩司

ジュピターショップチャンネル株式会社

執行役員 販売企画本部長 江原 由美

販売企画本部 プログラミング部長 時崎 大介

ショッピングエンターテインメント戦略室 室長 亀田 和広

株式会社CS日本

編成局 局次長 兼 日テレ NEWS24 編成部 部長 堀金 澄彦

日本テレビ放送網 報道局 プロデューサー 長谷部 真矢

営業局メディア営業部 チーフマネージャー 山本 達磨

5. 番組審議：

(1) ショップチャンネル・ショップチャンネル 4K
審議番組：旬の味覚！ 厳選フルーツ&ベジタブル特集
放送日時：2025 年 10 月 8 日 (水) 18:00 ～ 19:00

■ 審議委員意見

・じゃがいもの“インカのめざめ”のところで、私が見ているモニターのせいかもしれないが、事前に送ってもらった資料の写真ではすごく黄色っぽいイメージがあったが、放送で映ったのが普通のじゃがいものようで、違う色に見えて、それが気になった。

“和栗のジャム”について、番組の中で「和栗を 50%使っています」と説明していたが、ではあと 50%は何だろうというふうに、番組を見た消費者の中には疑問に思われる方もあるのではないかと。

“紀の川柿”のところで、後ろの方にパネルが映ってロコミを紹介していたが、2022 年と 2023 年のものだったので、鮮度という意味では 2024 年のものがないのかなと思った。

・秋の実にふさわしい内容で、それぞれの果物について特色などをきちんと説明してくれたのは素晴らしかったが、もうちょっと生産者の顔なり、雰囲気を画面の中に入れていただきたかったと思う。こんな畑で作っていますとか、動画は難しかったら写真

でもいいので、こういう状態で栽培しているとわかるようなものがあつたら、もっと身近に感じられるのではないかと。じゃがいもの色の違いは、私もちょっと気になった。

・私も、“インカのめざめ”の色が違うのは気になった。サツマイモのような黄色っぽい感じをイメージしていたら、本当にいわゆるじゃがいもで、静止画と実際に放送で映っていたものはけっこう違っていた。

猛暑が続く気象条件の中での旬の味覚というところで、生産者の方が苦勞されているというエピソードみたいなものがあると良かったのかなと思う。できた品物が非常にいいという説明はあつたが、普通にスーパーなどで売っているような品種ではないので、そのあたりも含めてうまくアピールしていただければと思った。

・旬を感じられなくなった今、こうやって番組で旬の食材を見せてくれるというのはいいこと。それぞれの食材のシズル感も出ていて、とてもきれいに撮れていて、いろいろなアレンジ方法なども紹介されていて、今、お店の人と対話して買い物することが少なくなったのを、ショップチャンネルが代わりにやっている、素晴らしいなと思った。

ただ、先ほどもご指摘があつたが、“和栗のジャム”の「和栗を50%使っています」は、私もあとの50%は何が入っているか最後まですごく気になった。生産者さんの顔というのも、写真は出していたけれども、やはり動いている映像もあるといいのではないかな。

・キャストの方は素晴らしいのだが、ラメ入りマニキュアをされていて、みかんを割る時などにどうしても目が行って、個人の好みだが、美味しくなさそうなのではと感じる。

・“インカのめざめ”のときに、「今、蒸し料理が流行っているので、蒸してもおいしいですよ」みたいなことを言っていたので、一緒に蒸し器を販売すると売れるのではないかな。

・“インカのめざめ”、“太陽の雫”、“紀の川柿”、“ぐんま名月”、“和栗の贅沢ジャム”、どれもネーミングだけでシズルが感じられて素晴らしい。ゲストの方の説明も、ものすごく上手。しゃべりのセンテンスが短くて的確で、オーダーが入ってくると「ありがとうございます」というその言葉がとてもさわやかで、好印象を持った。また、私も生産者の顔をもっと自慢していいんじゃないかなという気がした。

一つ気になったのは「タッチでSHOP」の紹介があつたが、何のことかちょっとわかりにくかった。

あと、ショップチャンネルにはアンテナショップはあるか。こういう旬のものはアンテナショップで実際に見てみたいという気分になった。どこかで触れられる場所を考えていただけたらもっとファンが増えるのではないかな。

・ネーミングの話が出たが、“インカのめざめ”とか“太陽の雫”とか、ネーミングは本当に素晴らしいが、加工食品ではない、こういう生の果物のネーミングというのは、法律というか表示上どういう位置付けなのか。商標なのか、生産者がつけているのか、農協や協同組合で地域で作っているものに対してネーミングしているのか。

ネーミングをつけられるカテゴリーがどういうものなのかわからないので、その範疇というか法律上の何かがあるのかお聞きしたい。

・ひとつだけ位置付けが違うのが“和栗のジャム”で、ほかのものは果物だが、これだけ加工品。ただ、加工品なのに表示が何もなく、瓶にラベルもないし、メーカー名も全く言われておらず、表示義務とか情報提供義務はないのだろうか。ネットを見れば書いてあるのかもしれないが、ちょっと気になった。

・それぞれの食品が美味しそうで、食べてみたいというふうに思った。味を伝えるというのは非常に難しいが、出演している2人はうまくやり取りをしながらいい表現をされたので、食べてみたい手に取りたいという気持ちになった。また、先ほど何人かの方が話をされていたが、私も“インカのめざめ”のお芋の色は気になるところがあつた。

・全体を見て、例えば“インカのめざめ”は3キログラムと書いてあるが、個数はどれぐらいあるのかわからなかった。“紀の川柿”に関しては2.5キログラムで8玉から13玉、りんごの“ぐんま名月”も2.5キログラムで11～12玉、数は大体これぐらいですっていうのを、重さと両方書いていただけるとイメージしやすい。

■ 事業者発言

・おおむね、旬のものを見て食べたくなるというようなご意見をいただき、全国の美味しいものを紹介する番組は大変好評なもののひとつで、見せ方も含めていろいろブラッシュアップをしてきたので、ある程度評価いただけたところがあったかと思う。一方で、表示の面でいくつかご質問、ご意見をいただいたので、できる範囲で回答する。

・何人かの方から“インカのめざめ”の色が写真と違うのではないかというご意見があった。

この商品に限らず、撮った写真と放送で見える色味というのが違っているということはある、そうしたことを防ぐためにもカメラテストなどを実施することもあるが、今回は写真と画面越しで見るとかなり違っていたということで、反省すべきところだ。こちらについては持ち帰りたい。

・“和栗のジャム”について、和栗が50%だと、あとの50%は何なのかというご意見をいただいた。

和栗が50%で加工品なので、あとの50%は他のものが入っているということになるが、見ている方々にわかりやすい表示を検討していきたいと思う。

加工品だが表示が不足しているのではないかとご指摘については、持ち帰って社内で確認する。

※事務局注：和栗のほかは、砂糖、水あめ、寒天を使用している。

1本ずつの瓶に表示がないことについて、社内審査時にメーカーへ確認をしているが、

「5本1セットでの販売であり、1本ずつでの販売ではないので、外箱にのみ一括表示があることで問題ない」旨をメーカーにて行政確認済み。

・生産者の顔をもう少し動画で見せたらいいのではないかとご指摘も、複数ご意見をいただいた。

写真はいくつか出ていたと思うが、動画であればより身近に感じていただけるというところ、どこまで生産者の方との合意ができるか次第だが、積極的に取り組んでいきたい。

・キログラムだけの表示では何個ぐらい入っているのかわかりにくいとご指摘があった件、目安として何個ぐらい入っていると言えるのかどうか、物によるとは思いますが、どのぐらいの分量なのか伝えることは必要だと思う。こちらも社内に持ち帰らせていただきたい。

・キャストがラメ入りのマニキュアをしていたという件、試食のシーンなどでは当然食材を扱うので、単に演出面のことだけではなく、清潔さ、衛生面のバランスもあるので、ご意見を今後に生かしていきたい。

・蒸し器なども同時に販売すると良いのではというご意見について、弊社の場合は、基本的には1時間でひとつのジャンルのものを紹介する形式になっているが、複数のジャンルのものを同時に売ることもあるので、今後検討したい。

・「タッチでSHOP」の説明がわかりにくいというご指摘、こちらはオペレーターと会話をしなくても電話口の音声案内に沿って番号を押していけば商品の注文ができるという仕組みで、こちらを利用すると混雑なく注文ができるという意味で案内しているが、何のことなのかかわからない方も多いかと思われるので、より丁寧な説明をしていく。

・ネーミングがどういうふうにつけられるのかというご意見をいただいた。今回の商品に関して把握していないが、確認したい。

※事務局注：“インカのめざめ”＝登録品種の名称（農林水産植物の種類としてはバレイショ種）

“ぐんま名月”＝登録品種の名称（農林水産植物の種類としてはリンゴ属）

“紀の川柿”＝平核無柿を木に成ったまま渋抜きしたものの名称

“太陽の雫”＝生産者団体による商品名（生産者団体が定めた基準を満たしたみかんの名称）

“国産和栗の贅沢ジャム”＝メーカーによる商品名

・アンテナショップなどがあれば、そういったところで紹介するとなおよいのではというアドバイスをいただいた。

ショップチャンネルには大阪に店舗があるほか、不定期でポップアップのストアもやっているの、食品をどこまで紹介できるか制限もあるかもしれないが、将来的にはそういったところもやっていきたいと思う。

(2) 日テレNEWS24

審議番組：【ノーカット】悠仁さま成年式「加冠の儀」 40年ぶり宮中儀式

放送日時：2025年9月6日（土）9:45～10:27

■ 審議委員意見

・40年ぶりの成年式を詳しく生中継されていて、宮中の中でこういう儀式が行われているのだということ、伝統の重みとかそういうものをしっかりと再認識できた。こういう放送は地上波ではなかなか難しいもので、衛星放送ならでは。

この番組と直接関わるわけではないが、皇室の方々のニュースを伝える上で、敬語の使い方は難しいのだなと改めて思った。社で皇室に対する敬語の使い方の基準みたいなものを持っていて、それに従って表現しているのか。教えて頂きたい。

・私も同様に、ノーカットであれだけ静かに見せてもらえて、しきたりの凄さが感じられて、とても良い印象を持った。

解説員の井上さんの説明は本当に丁寧で、安心して聞ける落ち着いた語りの言葉で、（冠を顎の下で結んだ“掛緒”の端を切る際の）「パチンパチン」という和ばさみの音の説明や、和歌の解釈などもしていただけて、勉強にもなった。

皇室の40年ぶりの行事をノーカットで中継してくれたことに敬意を表したい。

・ライブという形で長い時間の行事が丸ごと放送されるというのは、“大喪の礼”のような弔事の時であるというイメージがあったが、今回のような慶事を生中継するというのは意義があることで、きちんと放送する姿勢は非常に大事だと思った。

一方、やむを得ないことだと思うが、前回、40年前の（秋篠宮皇嗣殿下の）「加冠の儀」の映像や、（今回の成年式の一番最初の行事である）「冠を賜うの儀」の映像が出たり、VTRの部分とライブの部分が混ざっていた。成年式の全体像みたいなものを把握してないので、一瞬、過去の映像か現在のライブ映像かどちらなのかと思うところがあった。そのあたりは今後、何かしらの形で考えるべきではないか。

・他のニュースでは一瞬の場面だが、生中継で見ると、その儀式のひとつひとつがわかる。参列者の宮様たちの様子も見られて、厳かな中にも人間らしさがあって、良かった。これから先の人たちにも、皇室の映像アーカイブとして貴重なものだろうと思うし、そういうものを日テレNEWS24でやるということにすごく意義を感じた。

また井上解説員がすばらしくて、解説が過剰でもなく本当にわきまをいらして、ちゃんと教えてくれる。最後に、「今の皇室は女性ばかりになっているが、今回の行事がこれからどうしたらいいかを考えていくきっかけになれば」という問題提起をされているところまで含めて、番組としてとても良かったと思う。

・井上解説員の「時代絵巻を見るようだ」という表現が本当にその通りだと思う。アナウンサーの方が所作や衣装の紹介をなさっていたが、よく調べられていて分かりやすく、感心した。

また、ライブの音声が非常にクリアでびっくりした。「パチンパチン」という和ばさみの音もさることながら、悠仁親王がお話になっている声もすごくクリアに録れているので、よく拾った、どこでどういうふうに録っているのかというふうに思った。

井上解説員が言った「この20年皇位継承の問題は変わっていない、“政治の怠慢”を思わずにはいられない」は、一步踏み込んだ印象的な言葉だった。皇室外交というのは外務省の外交官だけではできないすばらしいものがあるので、皇室のあり方というのは国民の総意として考えなければいけない問題だと思った。

・皇室のこういう行事を見たいという国民は多いと思うが、どういうふうに告知をしたのか。日テレNEWS24は同じ放送内容を繰り返すことが多いが、今回の「加冠の儀」はリアルタイムで1回だけの放送だったのか、そのあとも何回か放送したのか知りたいし、オンデマンドで後で見ることでもできたらいいなという感じもした。

中継自体の話だが、以前にも話題になったが、現場の1コーナーにスタジオが作られているので、周りの事務の音などが入ってくるさい時がある。今回もしゃべり声が入っていたり、1回電話が鳴ったり、こういう厳かな行事に雑音が入るとするのは非常に失礼だし、聞きづらいと思う。

また、画面の下の方に社会とか国際とか、ニュースがテロップでずっと入っていたが、厳かな中継とマッチしていない。そういう余計な情報無しでじっくり見たいというのが個人的な感想だ。

・天皇家の行事をこのような生中継の番組で編成したというのは、24時間365日のニュース専門チャンネルならではだと思った。他局ではこのニュースはどういうふうに報じられたのかというのを教えて頂きたい。

他の委員も触れていたが、40年ぶりであるがゆえに、列席者も少し戸惑いながらも進めておられることも、テレビであるがゆえに伝わっているというふうに思った。また、生中継すると、今の宮家がいかに女性が多いのかが、ものすごく伝わってくる。

今回は、解説員を長らく務めておられる井上さんと、それから局アナの後呂さんの二人での進行で、非常に息も合っていて、過不足ないナレーション、中継画面などが見せられたと思う。日テレNEWS24にはフリーのアナウンサーも入られており、フリーの方は技術があまり高くないように見受けられるが、トレーニングみたいなことはしておられるのか。

■ 事業者発言

・いろいろご意見、基本的にお褒めの言葉をいただき、大変うれしく思っている。

画面に出ていたのは井上解説員と後呂アナウンサーだったが、他にも社会部の皇室担当の記者たちやディレクター、デスクたちも、間違えてはいけない放送なので、本当によく勉強してよく準備をして迎えた生放送だった。皆さんに言っていたことはチームに伝えたいと思う。

・敬語の使い方の基準というのは、アナウンサーの中には皇室担当のチームがあり、例えば「宮様にはこういう言葉使い」、「皇室を離れた方にはこういう言葉使い」、といった基準というのがあると思う。

フリートークの中では若干崩れてしまうことが見受けられるのかもしれないが、ニュース原稿を書く上ではきちんと基準があると思う。

・リアルタイムの映像と40年前の映像とが行ったり来たりするというのは、構成上避けられないところだとは思う。皇室関連の場合、画面をなるべく加工しないようにしており、ニュース映像で出たりする字幕スーパーも極力顔にかからないようにとか、そういう配慮もあるので、説明が若干足りなかったかもしれない。

・井上解説員に関しては、もともと読売新聞の記者だったこともあって、社会的な問題提起であったり、そういうところまで深く

踏み込んでいつも解説をしていただいているので、私たちも非常に勉強になるし、ああいったライブにその解説が加わることで本当に深みが増すと思う。

後呂アナウンサーに関するコメントをいただいて有り難く思っている。アナウンス部の中に皇室担当のアナウンサーというのが何人かおり普段から準備をしているが、後呂は特に慎重なタイプのなので、40年前の映像も見て勉強して、かなりしっかり準備をして臨んでいた。

・ライブの音声クリアだったというところだが、これは代表カメラが入っていて、NHKさんだと思うが、その技術的な恩恵だったかもしれない。

・告知は、いわゆる特番としてあらかじめ組まれている場合には番組表に載せて告知をしているが、今回は、通常のニュースが流れている中、突然“ブレイキング”のテロップが入り、「今、新しいニュースがきましたよ」という演出で始まる手法を取った。この“ブレイキング”をやることによって、Yahoo!のアプリを入れている方には通知が行き、多くの人に見てもらえる。

アーカイブをご覧になりたい方は、日テレNEWS24のYouTubeでノーカットのものがご覧いただける。

時間が長いこともあり、同じ日の日テレNEWS24内では繰り返し放送はしていない。

・「成年式」が各局で報じられた状況は、午前中の「加冠の儀」に関しては日テレNEWS24でしか放送しておらず、午後の「朝見の儀」に関しては、こちらはNHKさんと民放では日テレNEWS24だけで、あとは短くストレートニュースとして放送されていた。

・去年もご指摘いただいたが、スタジオ周りの音が入ってしまう件、本当に反省しているが、報道局の中にスタジオがあり、上部が消防法や空調の関係であいているため、外の音が入ってきてしまう。2030年に報道フロアが新しくなる予定で、その時の課題として挙げているが、気をつけるように注意喚起は引き続き行いたい。

・画面の下に帯のように情報が流れてくるのはシステム的な仕様で、番組内容によって変えることはできない。常に情報を出す意義というのもあり、邪魔だと思われる可能性もあり、難しいところだ。

・フリーのアナウンサーの技術が低いのではというちょっと厳しいご意見をいただいた件、24時間ニュースを放送しているので、シフトを組んで、フリーのキャスターと日本テレビのアナウンサーとが順番に入っているが、どうしてもそこに差があると思われる。よりクオリティの高いニュースを放送できるようにキャスターにも協力してもらってトレーニングをしたい。